

評価結果概要表

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	3890300076
法人名	岩田 穂波
事業所名	グループホーム 柿の里
所在地	宇和島市柿原甲138番地1
自己評価作成日	平成26年3月10日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。（↓このURLをクリック）

基本情報リンク先	
----------	--

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	特定非営利活動法人JMACS
所在地	愛媛県松山市千舟町6丁目1番地3 チフネビル501
訪問調査日	平成28年3月14日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

柿畑のある静かな住宅地にあり、窓からは自然の景色を見ながら、のんびりと暮らしています。利用者さんの出来る事や、役割に目を向けながら、生き生きとはりのある生活を送っています。家庭的な雰囲気やを大事にし、安心して過せるホームを目ざしています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点（評価機関記入）】

●1階にテラス、2階にはベランダが整備されたことで、外気にふれながら体操やレクリエーション、食事やおやつを楽しむことができるようになった。外出が少な目の利用者も、ひなたぼっこ等ができるよう支援している。ウサギ、亀、金魚を飼っており、調査訪問時、利用者は居間の窓から外で遊ぶウサギを観察していた。
●事業所は、「利用者が事業所での暮らしに慣れてくると、じょじょにご家族の来訪が少なくなってくる」ことを感じて、ご家族と利用者の絆を深める支援の一つとして、昨年初めて母の日の機会にご家族から利用者へ手紙を書いてもらった。利用者は、とても喜ばれたようで今後も続けていきたいと話していた。
●お彼岸におはぎを作ったり、旧正月にいも餅を作る等して季節を感じられるような支援に工夫している。
●この一年では2名の利用者の看取りを支援した事例があり、ご家族も交代しながら一緒に支援した。後の運営推進会議時には、ご家族の参加をお願いして感想を発表していただいた。不安に思う職員もあつたが、何度も話し合いの場を持ち取り組んだ。

V. サービスの成果に関する項目（アウトカム項目） ※項目№1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目：23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています (参考項目：9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と
			2. 利用者の2/3くらいの				2. 家族の2/3くらいと
			3. 利用者の1/3くらいの				3. 家族の1/3くらいと
			4. ほとんど掴んでいない				4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目：18,38)	○	1. 毎日ある	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目：2,20)	○	1. ほぼ毎日のように
			2. 数日に1回程度ある				2. 数日に1回程度
			3. たまにある				3. たまに
			4. ほとんどない				4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目：38)	○	1. ほぼ全ての利用者が	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目：4)	○	1. 大いに増えている
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 少しずつ増えている
			3. 利用者の1/3くらいが				3. あまり増えていない
			4. ほとんどいない				4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目：36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目：11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 職員の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 職員の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目：49)	○	1. ほぼ全ての利用者が	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 利用者の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 利用者の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目：30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が
			2. 利用者の2/3くらいが				2. 家族等の2/3くらいが
			3. 利用者の1/3くらいが				3. 家族等の1/3くらいが
			4. ほとんどいない				4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目：28)	○	1. ほぼ全ての利用者が				
			2. 利用者の2/3くらいが				
			3. 利用者の1/3くらいが				
			4. ほとんどいない				

自己評価及び外部評価結果表

サービス評価自己評価項目 (評価項目の構成)

- I.理念に基づく運営
- II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援
- III.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント
- IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援

【記入方法】

- 指定認知症対応型共同生活介護の場合は、共同生活住居(ユニット)ごとに、管理者が介護職員と協議のうえ記入してください。
- 全ての各自己評価項目について、「実施状況」を記入してください。

(注) 自己評価について、誤字脱字等の記載誤り以外、外部評価機関が記載内容等を修正することはありません。

※用語について

- 家族等＝家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。
(他に「家族」に限定する項目がある)
- 運営者＝事業所の具体的な経営・運営に関わる決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)。
- 職 員＝「職員」には、管理者および非常勤職員を含みます。
- チーム＝一人の人を関係者が連携し、共通認識で取り組むという意味です。
関係者とは管理者・職員はもとより、家族、かかりつけ医、包括支援センターなど、事業所以外で本人を支えている関係者を含みます。

ホップ 職員みんなで自己評価!
ステップ 外部評価でブラッシュアップ!!
ジャンプ 評価の公表で取組み内容をPR!!!

ーサービス向上への3ステップー

事業所名 グループホーム柿の里

(ユニット名) 1F

記入者(管理者)

氏 名 前田 祐子

評価完了日 28年 3月 3日

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
Ⅰ.理念に基づく運営				
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	(自己評価)	
			1階2階のよく目につく場所に位置をかえ職員がいつでも把握できるようにし、職員会で理念について話をする事もある。	
			(外部評価)	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	(自己評価)	
			自治会に加入し、自治会清掃や自治会主催の防災研修等に参加している。 幼稚園との交流もあり、ホームの柿の里祭りにも近隣住民や他施設の方も参加して頂いている。	
			(外部評価)	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	(自己評価)	
			キャラバンメイト研修を受けたスタッフで、認知症の方への理解を深める為、「認知症サーポーター要請講座」を他施設の方と協力し実施することができた。また当ホームにおいても近所の方、利用者さんのご家族を対象に講座を検討している。	
			(外部評価)	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実 際、評価への取り組み状況等について報告 や話し合いを行い、そこでの意見をサービ ス向上に活かしている	(自己評価) 会議には、自治会長、近隣住民、他施設職員、幼稚 園、家族、ボランティアの方など多くの参加者があ り、アドバイスや助言を頂き情報交換ができています。	
			(外部評価) 運営推進会議は、奇数月の第2火曜日に行っている。 警察署の方をお願いして「振り込め詐欺」について話 してもらった際には、メンバーに事前に会議内容を知 らせ、メンバーの方達が地域の方を誘ってくれて参加 者が増えた。会議時、地区の公民館でカフェを行って いることを知り、今後、カフェのメンバーと交流した いと考えていた。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、 事業所の実情やケアサービスの取組みを積 極的に伝えながら、協力関係を築くように 取り組んでいる	(自己評価) 市担当者にも推進会議に参加して頂き実情を把握して もらい、意見やアドバイスをしてもらっている。介護 相談員の訪問が2ヶ月に1回あり利用者さんに喜んで 頂いている。	
			(外部評価) 運営推進会議時には、地域の「認知症カフェ」開催の 情報や熱中症対策等の注意喚起がある。又、成年後見 制度の説明を行ってもらったこともある。キャラバンメ イトの研修を受け、サポーター養成講座に参加してい る。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定基準におけ る禁止の対象となる具体的な行為」を正し く理解しており、玄関の施錠を含めて身体 拘束をしないケアに取り組んでいる	(自己評価) 車椅子に安全ベルトを使用させてもらったりベッド柵 を使用している利用者がいるが、ご家族との話し合い で安全に過せるようにと理解して頂いている。時には 安全ベルトを外しイスやソファに座ってもらい、拘 束時間を減らすようにしている。 リスクのある利用者の居室にセンサーを設置し事故防 止に努めている。	
			(外部評価) 職員会議時には、拘束になる具体的な言葉やかかわり 方を示した資料を用いて勉強したり、話し合いを行っ ている。現在、車椅子の安全ベルトを使用している ケースがあるが、ベルト着用時間を短くすることに取 組んでいる。今後も、利用者の立場に立ったケアに 工夫を重ねてほしい。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	(自己評価) 職員会議等で虐待について意識づけをし事業所内で虐待が起こらないように、注意を払い防止に努めている。又、職員の精神的・肉体的疲労が蓄積されないような勤務体制作りをするよう努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	(自己評価) 1名利用されている方が入所しており、制度を活用されている。推進会議において講師を招き、成年後見人制度について学ぶことができた。職員には職員会議で説明し理解してもらった。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	(自己評価) 入居の際には、入所者やご家族の不安や疑問点をお聞きし、理解、納得を図ったうえで文書による契約を交わしている。又制度改正がある場合はその都度、説明し同意を得ている。	
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	(自己評価) 2ヶ月ごとに発行する事業所便りにおいて利用者さんの状況報告をご家族に送付している。面会時には、声掛けをし要望等を聞くように努めている。 (外部評価) ご家族来訪時、職員は明るく挨拶をして迎え、利用者の近況報告を行っている。外出行事の際には、ご家族にも案内して、一緒に楽しく過ごせるよう支援している。今後はさらに、運営推進会議の取り組み経過やケアの取り組み、事業所で特に力を入れていること等についても、報告してはどうだろうか。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	(自己評価)	
			朝の申し送り時やユニット会議などで、意見や提案を聞き話し合いをするよう努めている。情報は連絡ノート等を活用し共有している。	
			(外部評価)	
			管理者は、職員自身が気付けるような言葉かけに努めており、職員の自主性を大切にしている。職員から意見が出ると「まずは試してみる」ことに取り組んでいる。外部研修の年間計画を提示して、職員が希望する研修を受講できるよう、勤務の調整等を行っている。管理者は、今後、他の職員も認知症サポーター養成講座を受講できるよう取り組みたいと考えていた。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	(自己評価)	
			職員とコミュニケーションを計り希望を聞きながらシフト作りをしている。有給休暇もとれるようにしている。	
13		○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	(自己評価)	
			個々の自主的な研修参加に配慮し勤務時間で参加できるようにしている。職員会議で研修内容を発表しスタッフ間で共有できるように努めている。	
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	(自己評価)	
			他事業所の推進会議に参加している。相互研修では2名が参加し交流、意見交換の場となって良い所を参考にさせてもらいサービスの質を向上させている。	
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	(自己評価)	
			入所前に訪問を行い情報収集をし状況把握し要望に対応できるように努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	(自己評価) 入所前に見学に来て頂いたり、事前に不安や要望を聞きより良いサービスに繋がるように取り組んでいる。ご家族様とのコミュニケーションを計り、話しやすい雰囲気作りをしている。	
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	(自己評価) ご本人やご家族様の意向をしっかりと把握し安心してサービスを受ける事ができるように努めている。	
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	(自己評価) 共に暮らすという意識を持ち、教えあったり励ましあったりして信頼関係を築き楽しい時間を過ごせるよう努めている	
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	(自己評価) ご家族の気持ちに寄り添い意向を聞きながらご本人と良い関係が築けるようにしている。疎遠になっているご家族には電話等で状況を報告し面会等のお声掛けをしている	
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	(自己評価) ご家族、知人、友人の面会時にはゆっくりと過ぎて頂くよう配慮している。幼稚園児との交流や1ヶ月に1度お手玉ボランティアの方がこられ楽しい時間を過ごしている。 (外部評価) 入居前から利用していたお店で、毎月買い物ができるよう支援しているケースがある。事業所は、「利用者が事業所での暮らしに慣れてくると、じょじょにご家族の来訪が少なくなってくる」ことを感じて、ご家族と利用者の絆を深める支援の一つとして、昨年初めて母の日の機会に、ご家族から利用者へ手紙を書いてもらった。利用者は、とても喜ばれたようで今後も続けていきたいと話していた。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	(自己評価) テーブル席やソファ席は、利用者同士の相性などを見極め配慮していることで、会話が弾み楽しい時間を過ごされている。トラブルや訴えがあれば早期に随時変更をしている。	
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	(自己評価) 退所後もご家族から電話での相談や本人の状況について報告して頂くこともある。	
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	(自己評価) 日々のかかわりの中でお声を掛け言葉や表情などからご本人の思いを推測しできる限り希望に沿える様努めている。困難な場合はご家族から情報を得るようにしている。 (外部評価) 前回の外部評価実施後、利用者一人ひとりの情報を整理し、誕生から現在までの経過や思いをまとめ、個別記録にファイルした。日々の介護記録には、利用者の状況や言葉をそのまま記録している。入居時には、ご家族にも情報提供をお願いしている。利用者が亡くなった際には、仲良くしていた利用者の思いを察して、最後のお別れができるよう支援した。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	(自己評価) 入所前にご家族から生活歴を伺うこと以外に入所後の暮らしの中で知り得た情報を記録に残し職員で共有している。	
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	(自己評価) 利用者1人ひとりの生活リズムを把握し少しの変化にも気をつけ充実した1日が送れるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイディアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	(自己評価)	
			入所時から本人、家族の思いを大事にし聞くように努めている。家族の面会時には生活状況での気付きや意見を聞き、プランに反映できるよう努めている。	
			(外部評価)	
			ご家族の来訪時にケアへの要望を聞き取り、介護計画に採り入れている。ご家族の希望に沿って歩行器を使用した歩行練習を支援しているケースがある。	利用者一人ひとりが、より良く暮らせるように、個々の暮らし方の希望等を介護計画につなげる仕組みを作してほしい。又、理念とも照らし合わせながら支援を工夫してほしい。
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	(自己評価)	
			毎日の個人ごとの日誌には日常生活での利用者同士や職員とのかかわりの様子や言葉・行動を記録し、その中での気付きや工夫があれば申し送り等にて話し合いをし情報共有し実践につなげている。	
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	(自己評価)	
			外泊や外出等は、本人や家族の意向を汲めるようにしている。認知症カフェへ出かけたりされるかたもいる。昔懐かしい、おはぎや芋の餅と一緒に作り手慣れた手つきで作られ皆でおいしく頂いた。	
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	(自己評価)	
			地域行事への参加や公民館の活動のアサガオ展出品は毎年なじみになっている。賞を頂き賞状を飾っている。お手玉ボランティア、相談員との交流、幼稚園児との交流等により楽しい暮らしができるよう努めている。	

自己評価	外部評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に し、納得が得られたかかりつけ医と事業所 の関係を築きながら、適切な医療を受けら れるように支援している	(自己評価) 利用者の症状に伴い、歯科、耳鼻科、眼科等受診して いる。ご家族が付き添われる場合は健康状態の記録の コピー等を持参してもらっている。	
			(外部評価) ほとんどの利用者が、往診可能な協力医をかかりつけ 医としている。受診時には、職員が付き添い支援して いる。調査訪問時、食後の服薬は、個別の薬箱を利用 者のとなりで開け、日付等を確認してから支援してい た。	
31		○看護職との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた 情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問 看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が 適切な受診や看護を受けられるように支援 している	(自己評価) 日常の関わりの中で、利用者さんに変化や不安な事が あれば速やかに看護師へ連絡し相談ができています。状 態によっては早々に受診等の対応をしています。	
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療でき るように、また、できるだけ早期に退院で きるように、病院関係者との情報交換や相談 に努めている。または、そうした場合に備 えて病院関係者との関係づくりを行っている。	(自己評価) 入院時の対応、医師からの説明の時もご家族様と同行 したり、利用者さんの支援方法等の情報を医療機関へ 提供し協力している。入院期間中も再々面会したり連 携室とこまめに情報交換ができています。退院後も相談 できています。	
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支 援 重度化した場合や終末期のあり方につい て、早い段階から本人・家族等と話し合い を行い、事業所でできることを十分に説明 しながら方針を共有し、地域の関係者と共 にチームで支援に取り組んでいる	(自己評価) 契約時に重度化や終末期について説明をしっかりとっている。看取り に関しても説明を行い利用者さんが重度化してから時期を見て延 命治療の有無等、希望・意向を自筆で頂いている。看取りの希望が あれば、施設で出来る事、出来ないこと等を充分説明し状態に応じ てカンファレンスを行っている。	
			(外部評価) この一年では2名の利用者の看取りを支援した事例が あり、ご家族も交代しながら一緒に支援した。後の運 営推進会議時には、ご家族の参加をお願いして感想を 発表していただいた。不安に思う職員もあったが、何 度も話し合いの場を持ち取り組んだ。職員は「人が亡 くなる現場に立ち会えてよかった」「ご家族が喜ばれ た」「利用者は幸せだろうな」等と感想を話してい た。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	(自己評価) マニュアルがあり、急変時にも速やかに対応できるように備えている。場合によっては、適切な対応ができるよう話し合い職員全員で知識を高めている。	
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	(自己評価) 9月に夜間地震を想定した避難訓練を職員、利用者さん共に参加し消防署員指導のもと、実施した。各ユニットに災害時マニュアルを作成し全職員が把握できるようにしている。敷地内倉庫には備蓄品を備えている。 (外部評価) 前回の外部評価を受け、居室には、家具の転倒防止器具を取り付け、地震対策に取り組んだ。訓練は、年3回行っている。内2回は、業者の消防点検時を捉えて、通報訓練や消火訓練を行っている。地区の防災フォーラムに参加した際には、近くにあるダムの放流について話し合った。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援				
36	14	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	(自己評価) 一人一人の気持ちを尊重し、さりげない声掛けを心掛けている。職員は職員会議・ユニット会議時に個々の対応について話し合いをし周知徹底をしている。利用者さんの不安な気持ちを受け止め声掛けや対応に努めている。 (外部評価) 管理者は「声の大きさ、スピード、トーンにより、同じ言葉かけでも感じ方が違う」ことを職員に話している。職員会議以外でも、気になる言葉があれば、その都度、職員で話し合う場を作っている。昼食時、職員は、利用者に離れられの作り方や離れ祭りの時期について教えてもらっていた。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	(自己評価) 日々の生活の中での会話で思いや希望を探り、一人一人が自分で決定できる場面を提供できるように心がけている。	

自己評価	外部評価	項目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	(自己評価) 個々のペースに合わせ、その日の体調や気持ちに配慮しながら思い思いに過せるように支援している。天気の良い日はテラスに出て日向ぼっこをしたり庭の観察をしたり楽しい時間になるようにしている。	
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	(自己評価) 各居室に洗面台があり個々で整容されている。困難な方は介助し支援している。髪のカットは資格を持った職員が好みの髪型になるよう声掛けしながら行っている。ご自分で化粧をされている方もおられたり、外出時には季節や気温にあった洋服を一緒に選んだりして支援している。	
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	(自己評価) 旬の食材を取り入れるようにし、栄養のバランスや盛り付けにも配慮している。おせち料理は毎年手作りし楽しみにされている。誕生日には、チラン寿司や赤飯等を提供したりケーキもあり職員と一緒に楽しい時間を過ごしている。元気な方は、食事後に食器を台所まで持ってこられる方や、テーブル拭きの手伝いをして頂いている。 (外部評価) 献立は、これまで作った献立を参考にして、1ヶ月分を作成している。汁物、漬物、果物を毎回付けて、彩り等見た目も楽しめるように工夫している。食器は、馴染みある箸やコップを使用している方もいる。利用者と職員でお彼岸におはぎを作ったり、旧正月にいも餅を作る等して季節を感じられるような支援にも工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	(自己評価) 食事摂取量のチェックをし栄養のバランスに配慮している。水分のとりにくい方には、おやつ時のコーヒー・紅茶・ココア、入浴後にはポカリを提供し水分量の確保に努めている。飲み込みが悪い方にはとろみをつけ提供している。夜間にはペットボトルにお茶を入れ居室においている方もいる。	
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	(自己評価) 口腔ケアの重要性を理解し、食後の口腔ケアは個々の能力に合わせ、声掛け・見守り・介助を行い義歯の定期的な洗浄等配慮している入れ歯が合わなくなったり、虫歯等があれば歯科受診をしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	(自己評価) 1人1人の排泄パターンを把握する為、体調管理表を使っている。声掛けやトイレ誘導によりできるだけトイレでの排泄を支援している。トイレ内にテーブルを設置し車椅子使用の方が立ちやすいよう工夫している。	
			(外部評価) トイレ付きの居室がユニットごとに2室あり、夜間ふらつきのある利用者には、居室移動を提案するケースがある。又、退院間もない利用者は、夜間のみポータブルトイレを使用するケースがある。トイレ内にテーブルを設置しており、排便時の前屈みの姿勢時に使用したり、立ち上がりの手すりとして利用している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	(自己評価) 日々の状態観察に気を配り水分、食事、運動等にも気をつけている。便秘傾向の方がおり服薬コントロールをしたり、個々に応じバナナを摂取する等、自然排便を促す取り組みをしている。	
			(外部評価) 入浴前には、バイタルチェックをし体調の管理を行っている。入浴を嫌がる利用者さんにはタイミングをみて声掛けしている。浴槽に入れない方は、足浴をし温まってもらえるように肩から何度もお湯をかけている。	
45	17	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	(自己評価) 入浴前には、バイタルチェックをし体調の管理を行っている。入浴を嫌がる利用者さんにはタイミングをみて声掛けしている。浴槽に入れない方は、足浴をし温まってもらえるように肩から何度もお湯をかけている。	
			(外部評価) 顔に水が掛かることが嫌な方には、シャンプーハットを準備している。ご自分専用のものを用意している方もいる。居室からご自分用のシャンプーや石鹸を持参して入浴する方もいる。現在、浴槽で温まる支援を行いにくい利用者もあるが、利用者の希望や好みを探り、利用者主体のケアの実践に向けて工夫できることはないか、話し合ってみてほしい。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	(自己評価) 一人一人の生活状況を把握し、体調や希望に応じ自由に休息して頂いている。日中には適度な活動を促し生活リズムを作れるように支援している。夜眠れない時は室温、温度のコントロールをしたり、水分補給をし気持ち良く眠れるよう努めている。	
			(外部評価)	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	(自己評価) 一人一人に合わせ薬箱、薬袋の工夫をしている。薬の説明書はいつでも確認できるように内服チェック表がある。薬の変更があればその都度、申し送り・日誌・連絡ノートを活用し把握できるようにしている。	
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	(自己評価) 自分の仕事として洗濯物たたみや新聞折り等されている。職員とのコミュニケーションやレクリエーションで楽しい時間を過ごせるように支援をしている利用者同士の会話も楽しんでいる。	
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	(自己評価) 買い物時や事務的な外出時に一緒に出掛けられるように支援したり、家族とお墓参りやドライブ、食事等に外出される方もいる。 (外部評価) ご家族も誘って初詣や南楽園梅まつり、菖蒲祭りに出かけたり、新たに掛けられた九島橋の見学にも行った。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	(自己評価) お金の管理は事務所で行っている。外出支援で出掛けた時の飲食代やその方に応じた支払援助を行っている。	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	(自己評価) 家族から様子伺いの電話があったり、電話をかけてほしいと頼まれ電話をかけたりと取次ぎをしている。	

自己 評価	外部 評価	項 目	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容 (外部評価のみ)
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 亀やメダカ、金魚の飼育をしている。1Fにはテラスや芝生の庭があり、天気の良い日にはひなたぼっこをしたり、お茶や食事を楽しむ事もある。リビングには季節に合わせ手作りの飾り物や小物を飾り季節を感じれるよう工夫している。	
			(外部評価) 1階にテラス、2階にはベランダが整備されたことで、外気にふれながら体操やレクリエーション、食事やおやつを楽しむことができるようになった。外出が少な目の利用者也、ひなたぼっこ等ができるよう支援している。ウサギ、亀、金魚を飼っており、調査訪問時、利用者は居間の窓から外で遊ぶウサギを観察していた。料理・旅行の本、絵本等、又、スケッチブックや色鉛筆、カルタ、トランプ等がすぐに手に取れるところに置いてある。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	(自己評価) 共有ペースでは、気の合った利用者同士がいつでも話ができるようテーブル席やソファ席の工夫をしている。気の合う利用者の居室へ訪問し談話されていることもあり、思い思いに過ごされている。	
			(外部評価) 家族の写真やアルバム、花や観葉植物を飾りお世話されている方もいる。本人なりの生活用品を持ち込まれその人らしい居室となっている。	
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	(自己評価) 家族の写真やアルバム、花や観葉植物を飾りお世話されている方もいる。本人なりの生活用品を持ち込まれその人らしい居室となっている。	
			(外部評価) テレビ台の上に放送局とチャンネル番号を大きく書いて貼っている居室があった。西日の当たる部屋には、窓の外に遮光ネットを付けている。応援している野球チームのグッズやお好きなぬいぐるみを飾っている方もいる。鉢植えの植物に名前を付けて育てている方もいる。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	(自己評価) 廊下・トイレ・浴室等の手すりの設置、全面バリアフリーで安全に配慮している。居室においては一人一人に合わせた銅線を作り工夫している。リスクのある方の居室にはセンサーを設置し早めの対応ができるようにしている。	
			(外部評価)	